

旧東海道と「うつくしまつ自生地」の案内。



2

家棟川橋のたもとに常夜燈があり、街道筋をしばらく西へ進むと、酒販店の角の路地に「天然記念物うつくしまつ自生地」の大きな案内標識があります。ここから道なりに坂を登り、右手に池を見ながら住宅街の中へ分岐にある案内に従って進みます。

「うつくしまつ自生地」の案内標識を目印に
旧東海道を離れて南へ



1

JR甲西駅前
浮世絵が描かれた
説明板を要チェック
JR草津線「甲西」駅の南口を出ると、駅前ロータリーに周辺案内図があります。歌川広重の浮世絵が目を引く「うつくし松」の説明板もチェックしておきましょう。ロータリーから南にのびる新しく整備された道路をまっすぐ行くと旧東海道です。

遊歩道入り口の見事なうつくし松。



しばらくすると広いグラウンドがあり、ひととき大きなうつくし松が目につきます。この山の斜面帯が自生地、遊歩道があるので順路に従って散策しましょう。斜面を登りつめると遠くに阿星山、大納言と思われる稜線が眺望できます。



3

斜面の遊歩道を登りつめる。

上の池の堤で休憩
ここから南照寺の道へ

往路を戻り、上の池の堤におりてみました。南には先ほど訪れた美松山、振り返ると北に甲西市街地が望めます。池の表面には薄い氷がはり、日の光を浴びてきらきらと輝いていました。舗装道に戻り、すぐに分岐する南照寺への道に入ります。



4

水面に氷をはった上の池。

笹に埋もれた「南照寺」の案内。



すつくと天にそびえる
うつくし松の姿に感動

すつくと天にそびえる

美松山 散策マップ

◆山行日/2010年1月19日
◆天候/晴れ
◆歩行距離/約3.5km
◆総時間/約2時間(休憩・散策含む)
◆難易度★(ヒギナー向け)

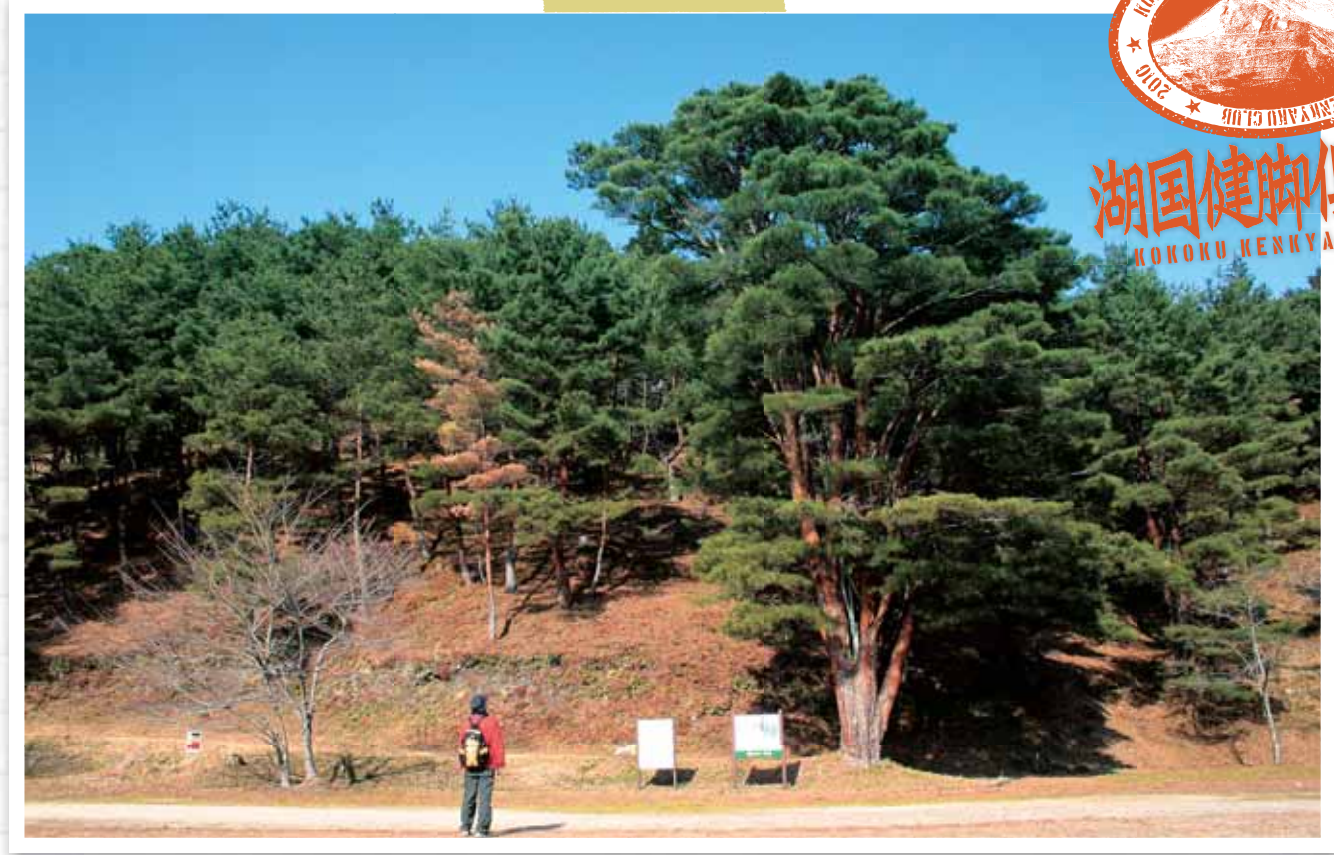
うつくし松とゆかりのある
松尾神社を参拝しましょう

分岐から東へ進むと南照寺の参道。山門の奥が松尾神社です。碑文の由緒によると、平安時代、領主藤原頼平が京都の松尾大社を美松山に勧請、うつくし松は神社の神木としてあがめられたとか。参道をまっすぐ下ると旧東海道。静かな街道筋の雰囲気も楽しめます。



5

南照寺の山門。奥に見えるのが松尾神社。



グラウンドの奥にそびえる大きなうつくし松。自生地の遊歩道はここからスタートする。

美松山
(びしょうざん)

丘陵地に自生する天然記念物
「うつくし松」をたっぷり!

その名前があらわすように、この山の南東斜面には国の天然記念物に指定されている「うつくし松」が自生しています。これはアカマツの変種で、1本の根から地表近くで幹がいくつにも分かれ、放射状に空に伸びています。まるで盆栽のような樹形は他では見られない珍しいもの。扇型や傘型、ホウキ型など、かたちもいろいろです。東海道五十三次の名所を描いた歌川広重の浮世絵の舞台にもなっていて、古くから旅人に愛された景観なのでしょう。現在は約200本のうつくし松が群生しています。

自生地までのアプローチはとても簡単。JR草津線甲西駅から30分ほど歩いていきます。駅前から旧東海道に出ると、いたるところに「うつくし松」の案内が示されていて、迷うことはないでしょう。自生地内は立ち入り禁止のため、まわりに遊歩道が整備されています。

美松山の三角点(227.3m)は、自生地の丘陵の西に位置するピークです。国土地理院の2万5千分1地形図では三角点近くの山あいには破線が通っているのですが、現在は山道らしきものは見つからず、三角点へのアプローチは断念。うつくし松をたっぷり堪能したあとは、往路を戻ってうつくし松ゆかりの伝説が残る松尾神社に立ち寄ってみましょう。

ひとくちメモ

藤原頼平と松尾神社
うつくし松の不思議な伝説

民話によると、平安時代、公家の藤原頼平がこの地で静養していると、突然、山の中から乙女たちがあらわれ「京の松尾明神に仕えるもので、あなた様をお護りするために参上しました」と告げました。感激した頼平がふと見ると、乙女の姿は消え、周囲の松が見たこともない美しい松に姿を変えたとか。病が癒えた頼平は都に戻り、松尾大社の分霊を戴いて、平松の里に松尾神社を創建したといひます。村の地名も頼平の「平」と松尾神社の「松」とをって平松と付けられたそうです。

A C C E S S & M A P



●JR「草津」駅から草津線で約15分「甲西」駅下車。うつくし松自生地までは徒歩約30分。

▶観光に関するお問い合わせ
湖南省観光物産協会
☎0748-71-2331
<http://www.biwa.ne.jp/~konankan/>

※山行の際は、国土地理院発行の正確な地図(2万5千分1地形図など)をご使用ください。
※標高は国土地理院地形図の数値を採用。